

山の天上寺付近で海拔580m位になるだろうか、六甲山での採集地点はほぼ最高峰近くの地点で、850m位あったのではないかと思われる。宍粟郡の水谷も海拔800m近くであった。氷上郡の神楽は粟賀山（海拔962m）の麓の所であるから、大体500m以上あるのではないだろうか。いずれにしても県下ではやはり山地と言えらる様な所にいる種のようなようである。それと、筆者の採集が全部道のそばの植物の葉上での採集で、石の下とか湿った様な地面、落葉下等の採集が無い。やはり探し方がまずいのかもしれない。どちらにしてもそうざらに見られる種ではない様に思うが、どんなものであろうか。

西宮市でムネアカセンチコガネを採集

田 中 稔

ムネアカセンチコガネ *Bolbocerosoma nigroplagiatum* WATER HOUSE を西宮市で採集しているので報告する。

1 ♀、兵庫県西宮市奥畑、21. VI.1987、田中稔採集、西宮市の満池谷墓地附近にある、越水浄水場の人工池に浮かんでいたものを採集した。

高橋寿郎氏は、“鳥と自然”第38号に摩耶山の甲虫の中に本種を写真入りで報告されておられる。それによれば、神戸市御影産♂（29-X 1956, M. Yoshizaka leg.）とある。御影の地名と共に吉阪道雄氏のお名前は、私が中学生の頃、同氏のお宅で友人と蝶の標本を見せていただき、ダイセンシジミ等を見て虫の採集にますます熱が入った頃を思いだしなつかしい。

西宮市でキョウトアオハナムグリを採集

田 中 稔

キョウトアオハナムグリ *Protaetia lenzi* Harold を西宮市で採集しているので報告する。

1♂、兵庫県西宮市門戸岡田町9。Ⅷ。1988、田中稔採集、

阪急電鉄今津線の門戸厄神駅附近の道路上に静止していたものを採集した。本種の採集は、私は西宮市では初めてである。

芦屋市におけるヨツボシナガツツハムシの記録について

西 隆 広

本誌第16巻1号で高橋寿郎氏が発表されたヨツボシナガツツハムシ *Clytra arida* Weise の報告¹⁾に接し、この美しいハムシは私も確かに採集したことがある、と思って標本を調べてみると1頭あったので高橋氏に御連絡した。²⁾ ただ、データをお伝えしていなかったのもので、そのデータを①に示す。

ところで高橋氏の報告によれば、本種は日本海側の豊岡市の例を除いて、概ね標高400m以上の地域で記録されているということである。一方①の採集地である城山（国土地理院発行の地形図では「鷹尾山」と記されている。しかし、一般には「城山」と呼ばれている）は標高263mで400mより100m以上低い。豊岡市の例³⁾もあるが、瀬戸内側での生息標高の資料となると考え、本年（1988年）、発生期と思われる6月に2度程、同山城を調査したが、再発見できなかった。

②は芦屋市教育研究所指導主事の古市景一氏の採集によるもので、城山では現在も生息していることが充分考えられ、来年以後も調査していく予定である。

③は芦屋川に沿った谷筋の登山道での記録である。当日は、石宝殿方面を訪れての帰途、芦屋川本流沿いの登山道へ入る付近（標高460m）で飛翔中の本種を1頭採集、以後注意深くハギ類を中心に調べた結果、距離約850mの間（標高460m～380m）の間で計6頭を得た。飛翔中の1頭を除きすべてハギから得た。その中でハギの葉を摂食していたのは2頭であった。また1頭はシマサシガメにとらえられていたもので、採集時には死んでいた。

ハギの葉上等で採集した本種は1株1頭で、隣接するハギに1頭ずつの例はあったが、2頭以上はなかった。

同地には8月20日に再度出かけたが、成虫出現期を過ぎたものか、1頭も見ることができなかった。

参考資料²⁾で報告されている Mt. Rokko, Okuike は芦屋市の奥地とすると、同地は芦屋川流域内である。従って本種は芦屋川上流域にいくつかの生息地をもっていると考えられる。